

# 英語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	水	4	1
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	4	水	4	2
英語学基礎講読	英語学の基本概念	2	金子 義明	3	火	4	3
英語学基礎講読	形態論入門	2	島 越郎	4	火	4	4
英語学各論	英語形式意味論入門Ⅰ	2	島 越郎	5	火	2	5
英語学各論	形態論とその周辺	2	西山 國雄	集中(5)			6
英語解析学各論	英語形式意味論入門Ⅱ	2	島 越郎	6	火	2	7
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅰ	2	金子 義明	5	金	5	8
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅱ	2	金子 義明	6	金	5	9
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅠ	2	金子 義明	5	金	2	10
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	金子 義明・島 越郎	8	水	2	11
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅡ	2	金子 義明	6	金	2	12
英語学演習	英語学の諸問題研究 Ⅰ	2	金子 義明・島 越郎	7	水	2	13

**科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)**

**曜日・講時：**前期 水曜日 4 講時

**semester：3, 単位数：2**

**担当教員：**島 越郎 (教授)

**講義コード：**LB33401, **科目ナンバリング：**LHM-LIN201J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

英語統語論入門 I

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to English Syntax I

**3. 授業の目的と概要：**

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらおう。また、英語の歴史的変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらおう。

**4. 学習の到達目標：**

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史的変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回：導入
- 第2回：英語の普遍性と特殊性
- 第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論
- 第4回：英語音声の基本的特徴
- 第5回：英語の綴り字と発音
- 第6回：英語のリズムとイントネーション
- 第7回：文をつくる規則：句構造規則
- 第8回：句構造規則と文法
- 第9回：構成素について
- 第10回：樹形図と構造関係
- 第11回：構造関係に基づく文法原理
- 第12回：文、樹形図、文法原理の関係
- 第13回：品詞と歴史的変化
- 第14回：語彙と意味の歴史的変化
- 第15回：まとめと期末試験

**6. 成績評価方法：**

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

**7. 教科書および参考書：**

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

**参考書**

江川泰一郎著『英文法解説』金子書房

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

**8. 授業時間外学習：**

講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

**9. その他：なし**

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB43403, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Syntax II

3. 授業の目的と概要：

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン

第3回：音韻・意味素性、主要部、句について

第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割 小テスト1

第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い

第8回：複文構造の歴史的变化

第9回：発音されない代名詞と歴史的变化

第10回：名詞句の構造と歴史的变化

第11回：句構造規則から X 理論へ 小テスト2

第12回：Wh 疑問文における移動操作

第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化

第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点

第15回：まとめと期末試験

6. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

江川泰一郎著『英文法解説』金子書房

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

8. 授業時間外学習：

講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

9. その他：なし

**科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)**

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：金子 義明（教授）

講義コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

英語学の基本概念

**2. Course Title (授業題目)：**

Fundamental Notions of English Linguistics

**3. 授業の目的と概要：**

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解をめざす。

**4. 学習の到達目標：**

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：人間言語の計算的特性 (1)：構造上の多義性

第3回：人間言語の計算的特性 (2)：語彙的多義性

第4回：人間言語の計算的特性 (3)：埋め込み

第5回：研究対象としての言語知識 (1)：導入

第6回：研究対象としての言語知識 (2)：生成文法

第7回：研究対象としての言語知識 (3)：普遍文法

第8回：言語知識の体系 (1)：音と意味の対応付け

第9回：言語知識の体系 (2)：繰り返し

第10回：言語知識の体系 (3)：派生によるアプローチと表示によるアプローチ

第11回：言語知識の体系 (4)：パラメータに基づく変異と転位特性

第12回：言語獲得

第13回：言語使用

第14回：言語の物理的基盤

第15回：まとめとディスカッション

定期試験は実施しない。

**6. 成績評価方法：**

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

**7. 教科書および参考書：**

テキスト：Robert Freidin (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications*, Cambridge UP.

Chapter 1 and Chapter 2. (pp. 1-36) プリント配布

参考書：原口庄輔・中村敏・金子義明（編）『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社

**8. 授業時間外学習：**

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと（2時間）。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題を解消しておくこと（2時間）。

**9. その他：なし**

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

形態論入門

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to Morphology

**3. 授業の目的と概要：**

単語の基本的な形態現象を扱う形態論がどのようにして発展してきたのかについて解説した文献を読むことにより、形態論の基本的な考え方について学ぶ。

**4. 学習の到達目標：**

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) Introduction
- 2) The Standard Theory
- 3) The SPE model of phonology
- 4) Morphosyntax in the Standard Theory
- 5) Generative Semantics and Lexical transformations
- 6) Lexical decomposition
- 7) Chomsky (1970)'s approach (1): Lexicalism
- 8) Chomsky (1970)'s approach (2) :X-bar syntax
- 9) Halle's (1973) approach (1): Word Formation Rules
- 10) Halle's (1973) approach (2): the phonological conditioning of morphological rules
- 11) Siegel's (1979) approach: the level ordering hypothesis
- 12) Aronoff (1976)' approach (1): word-based morphology
- 13) Aronoff (1976)' approach (2): allomorphy rules
- 14) Aronoff (1976)' approach (3) : morpheme and meaning
- 15) Summary

**6. 成績評価方法：**

学期末レポートに基づく。

**7. 教科書および参考書：**

開校時にプリントを配布する。

大石強著『形態論』開拓社

**8. 授業時間外学習：**

毎回の授業の復習をしっかりとやること

**9. その他：なし**

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB52205, 科目ナンバリング：LHM-LIN301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

英語形式意味論入門 I

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to English Semantics I

**3. 授業の目的と概要：**

英語における意味現象を具体的に概観し、形式意味論の観点からどのように分析されるのを解説する。

**4. 学習の到達目標：**

- 1) 基本的な意味現象を理解する
- 2) 形式意味論の基本概念を理解する
- 3) 形式意味論の基本的分析法が身につく

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) Introduction
- 2) General Constraints on Semantic Theory
- 3) Implication Relations (1): Entailment
- 4) Implication Relations (2): Implicature
- 5) Implication Relations (3): Presupposition
- 6) Referential Connections and Anaphoric Relations
- 7) Ambiguity and Synonymy
- 8) Denotation and the Foundation of Semantics
- 9) Reference and Sense
- 10) Truth
- 11) Syntax of F1
- 12) Semantics of F1
- 13) Some Illustrations
- 14) Remaining Problems
- 15) Summary

**6. 成績評価方法：**

毎回の授業で行う口頭英作文と学期末レポートの合計点

**7. 教科書および参考書：**

毎回プリントを配布する。(佐々木高政『和文英訳の修業』文建書房)

**8. 授業時間外学習：**

毎回の英作文をしっかり覚えること。

講義内容の復習に努めること。

**9. その他：**なし英語学概論を履修していることが望ましい。

**科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)**

**曜日・講時：**前期集中 その他 連講

**semester：**集中(5), **単位数：**2

**担当教員：**西山 國雄 (非常勤)

**講義コード：**LB98812, **科目ナンバリング：**LHM-LIN301J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

形態論とその周辺

**2. Course Title (授業題目)：**

Morphology and related domains

**3. 授業の目的と概要：**

本授業では、形態論を中心にそれと関連する統語論、音韻論を扱い、更に歴史言語学やフィールドワークにも触れる。対象となる言語は、英語と日本語が中心となるが、それ以外の言語、特にオーストロネシア語族も扱う。問答形式で、思考過程や論述方法も重視する。各授業の最後に簡単な振り返りノート（コメント）を書いてもらう。

**4. 学習の到達目標：**

受講生が、形態論は様々な部門や言語と関連することを理解し、各自の研究を行う際の視野が広げられる。言語学の論述方法が理解、実践できる。自分の研究スタンスが相対化できる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 形態論史概観
2. 英語形態論(1)：派生形態素の分類と制約
3. 英語形態論(2)：派生の順序付け
4. 英語形態論(3)：動詞由来複合語
5. 日本語形態論(1)：動詞の活用
6. 日本語形態論(2)：形容詞と形容動詞
7. 日本語形態論(3)：複合動詞
8. 日本語形態論(4)：使役と受け身の形態統語
9. 日本語形態論(5)：連濁とアクセント
10. 日英語を超えて(1)：能格性
11. 日英語を超えて(2)：接辞と一致
12. 生成文法を超えて(1)：歴史言語学とオーストロネシア語族
13. 生成文法を超えて(2)：フィールドワークと少数言語の保存
14. 進行中の研究(1)：日本語の動詞由来複合語と複合形容詞
15. 進行中の研究(2)：日本語の「ない」イディオム

**6. 成績評価方法：**

出席状況、振り返りノート、課題レポートを総合的に評価する。

**7. 教科書および参考書：**

開校時にプリントを配布する。

参考書については、授業中に適宜紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

復習や発展学習として、興味を持ったトピックの文献にあたるのが求められる。

**9. その他：**なし課題レポートのテーマは、授業に触れたことでも、各自が現在進行中の研究のその時点での報告でもいいが、前者が望ましく、両方に関わるのが理想的である。いずれにしろ、理論を取り払っても新しい「何か」が残るレポートを期待する。

科目名：英語解析学各論／ Analytical Study of English (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB62206, 科目ナンバリング：LHM-LIN302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

英語形式意味論入門 II

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to English Semantics II

**3. 授業の目的と概要：**

前期に引き続き、英語における意味現象を具体的に概観し、形式意味論の観点からどのように分析されるのを解説する。  
後期は特に、量化詞の問題を考察する。

**4. 学習の到達目標：**

- 1) 基本的な意味現象を理解する
- 2) 形式意味論の基本概念を理解する
- 3) 形式意味論の基本的分析法が身につく

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) Introduction
- 2) Type-driven semantics (1): semantic type
- 3) Type-driven semantics (2): the interpretation of an intransitive verb
- 3) Type-driven semantics (3): the interpretation of a transitive verb
- 4) Type-driven semantics (4): calculating the truth conditions of simple sentences
- 5) Quantificational Expressions
- 6) The Syntax of the Predicate Calculus
- 7) The Semantic of the Predicate Calculus
- 8) The Interpretation of Formulas with Quantifiers
- 9) Formulas with Multiple Quantifiers
- 10) Semantically Free and Bound
- 11) Quantification in English
- 12) Syntactic Preliminaries: Logical Form
- 13) The Fragment F2
- 14) Pronouns as Bound Variables
- 15) Summary

**6. 成績評価方法：**

毎回の授業で行う口頭英作文と学期末レポートの合計点

**7. 教科書および参考書：**

毎回プリントを配布する。(佐々木高政『和文英訳の修業』文建書房)

**8. 授業時間外学習：**

毎回の英作文をしっかり覚えること。  
講義内容の復習に努めること。

**9. その他：**なし英語学概論を履修していることが望ましい。

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：金子 義明（教授）

講義コード：LB55501, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語学の基本的思考法 I

2. Course Title (授業題目)：

Fundamental Perspectives in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

第1回：ガイダンス

第2回：全域的移動としての右節点繰り上げ

第3回：多重支配共有としての右節点繰り上げ

第4回：省略としての右節点繰り上げ

第5回：可能な支柱

第6回：島の現象

第7回：残留

第8回：束縛

第9回：作用域

第10回：関係を表す修飾語句

第11回：右端の制限

第12回：形態的（不）一致

第13回：厳密な同一性と緩い同一性

第14回：その他のトピック

第15回：まとめとディスカッション

定期試験は実施しない。

6. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：Barbara Citko (2017) "Right Node Raising," in *The Wiley Blackwell Companion to Syntax*, ed. by Martin Everaert and Henk C. van Riemsdijk, pp. 3939-3871.

参考書：原口庄輔・中村敏・金子義明（編）『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと（2時間）。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題点を解消しておくこと（2時間）。

9. その他：なし

**科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)**

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：金子 義明（教授）

講義コード：LB65501, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

英語学の基本的思考法Ⅱ

**2. Course Title (授業題目)：**

Fundamental Perspectives in English Linguistics II

**3. 授業の目的と概要：**

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。

**4. 学習の到達目標：**

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 導入
- 第3回 形態特性
- 第4回 意味特性
- 第5回 関係する交替現象
- 第6回 通言語的変異
- 第7回 純粹に統語的派生
- 第8回 主題役割のアプローチ
- 第9回 イベント構造のアプローチ
- 第10回 相のアプローチ
- 第11回 語彙的含意のアプローチ
- 第12回 語彙部門か統語部門か
- 第13回 動詞クラス再訪
- 第14回 その他のトピック
- 第15回 まとめとディスカッション

**6. 成績評価方法：**

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

**7. 教科書および参考書：**

テキスト：John Beavers (2017) "The Spray/Load Alternation," in *The Wiley Blackwell Companion to Syntax*, ed. by Martin Everaert and Henk C. van Riemsdijk, pp. 4011-4041.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明（編）『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社

**8. 授業時間外学習：**

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと（2時間）。授業後は、内容を確認するとともに、参考書等を活用して疑問点を解消しておくこと（2時間）。

**9. その他：なし**

**科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)**

**曜日・講時：**前期 金曜日 2講時

**semester：**5, **単位数：**2

**担当教員：**金子 義明 (教授)

**講義コード：**LB55206, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

英語統語論：極小主義によるアプローチ I

**2. Course Title (授業題目)：**

English Syntax: A Minimalist Approach I

**3. 授業の目的と概要：**

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

**4. 学習の到達目標：**

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Grammar (1): Traditional Grammar (Oral report and discussion)

3 Grammar (2): Universal and Language Acquisition (Oral report and discussion)

4 Grammar (3): Parameters and Parameter Setting (Oral report and discussion)

5 Words (1): Lexical Categories and Functional Categories (Oral report and discussion)

6 Words (2): Determiners, Quantifiers, and Auxiliaries (Oral report and discussion)

7 Words (3): Categorization Problems and Grammatical Features (Oral report and discussion)

8 Structure (1): Phrases, Clauses, and Specifiers (Oral report and discussion)

9 Structure (2): Projections and Testing Structures (Oral report and discussion)

10 Structure (3): Structural Relations and Word Order (Oral Report and discussion)

11 Null Constituents (1): Null T in Indicative Clauses (Oral report and discussion)

12 Null Constituents (2): Null T and Null C in Finite Clauses (Oral report and discussion)

13 Null Constituents (3): Null C in Infinitive Clauses and Defective Clauses (Oral report and discussion)

14 Null Constituents (4): Null Heads in Nominals (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

**6. 成績評価方法：**

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

**7. 教科書および参考書：**

テキスト：Andrew Radford (2016) *Analysing English Sentences*, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

**8. 授業時間外学習：**

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2時間)。

**9. その他：**なし前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

**科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)**

**曜日・講時：**後期 水曜日 2講時

**セメスター：**8, **単位数：**2

**担当教員：**金子 義明. 島 越郎 (教授)

**講義コード：**LB63204, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

英語学の諸問題研究 II

**2. Course Title (授業題目)：**

Topics in English Linguistics II

**3. 授業の目的と概要：**

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

**4. 学習の到達目標：**

- ①英語学研究の最新動向を把握する
- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回：導入  
第2回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第3回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第4回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第5回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第6回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第7回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第8回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第9回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第10回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第11回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第12回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第13回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第14回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート  
第15回：まとめ

**6. 成績評価方法：**

期末レポート

**7. 教科書および参考書：**

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

**9. その他：**なし

**科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)**

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

英語統語論：極小主義によるアプローチ II

**2. Course Title (授業題目)：**

English Syntax: A Minimalist Approach II

**3. 授業の目的と概要：**

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

**4. 学習の到達目標：**

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Head Movement (1): Auxiliary Inversion and CP Recursion (Oral report and discussion)

3 Head Movement (2): Null Operators and V-to-T Movement (Oral report and discussion)

4 Head Movement (3): Auxiliary Raising and Negation (Oral report and discussion)

5 Head Movement (4): Do-support (Oral Report and discussion)

6 Wh-Movement (1): Wh-Movement and Driving Wh-Movement (Oral report and discussion)

7 Wh-Movement (2): Subject Questions and Pied-Piping (Oral report and discussion)

8 Wh-Movement (3): Wh-Movement as Copying (Oral report and discussion)

9 Wh-Movement (4): Constraint on movement (Oral report and discussion)

10 A-bar Movement (1): Wh-exclamatives and Relative clauses (Oral report and discussion)

11 A-bar Movement (2): Two movement accounts of restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

12 A-bar Movement (3): Refining the Antecedent Raising analysis (Oral report and discussion)

13 A-bar Movement (4): Two sources for restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

14 A-bar Movement (5): Other A-bar Movement constructions (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

**6. 成績評価方法：**

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

**7. 教科書および参考書：**

テキスト：Andrew Radford (2016) *Analysing English Sentences*, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

**8. 授業時間外学習：**

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

**9. その他：**なし前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

**科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)**

**曜日・講時：**前期 水曜日 2講時

**semester：**7, **単位数：**2

**担当教員：**金子 義明・島 越郎（教授）

**講義コード：**LB73201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

英語学の諸問題研究 I

**2. Course Title (授業題目)：**

Topics in English Linguistics I

**3. 授業の目的と概要：**

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

**4. 学習の到達目標：**

- ①英語学研究の最新動向を把握する
- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

第1回：導入

第2回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第3回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第4回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第5回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第6回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第7回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第8回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第9回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第10回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第11回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第12回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第13回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第14回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第15回：まとめ

**6. 成績評価方法：**

期末レポート

**7. 教科書および参考書：**

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

**9. その他：**なし